

年 組 名前：

勝山城の「御城印」限定販売

都留市観光振興公社は、市民から「お城山」の愛称で親しまれ、県指定史跡でもある勝山城の切り絵「御城印」を限定販売しました。歴代の勝山城主である小山田、鳥居、浅野、秋元の4氏の家紋や、富士山と湧水を切り絵で表現しています。桜の名所であることから、桜の花びらもあしらいました。都留市によると、勝山



限定販売した勝山城の切り絵「御城印」

城は戦国時代に築城され、「武田二十四将」の一人の小山田信茂が非常時の守りの拠点「詰城」として使っていました。江戸時代には徳川家御用達の茶壺を運ぶ「お茶壺道中」の際に茶を保管し、熟成させていたとされます。お茶壺道中が富士山と縁が深いといわれていたことから、販売開始を「富士山の白」の2月23日にしました。

(2024年2月29日付 山梨日日新聞 週刊こぴっと10面)

問1 勝山城は市民から、どのように呼ばれていますか。

.....

問2 勝山城の歴代城主を、4氏答えてください。

.....

問3 勝山城は、江戸時代の「お茶壺道中」の際には、どのような場所とされていましたか。

.....